

## ご挨拶

第30回日本語教育連絡会議が、2017年8月26日(土)27日(日)の二日間、ドイツ北西部、ニーダーザクセン州オルデンブルク市の市民大学で開催されました。

初回の日本語教育連絡会議は、1988年にドゥプロブニクで開催されたと聞いております。以来、毎年開催されて、今回は30回目となりました。この会議の30年間連続開催という偉業を成し遂げてこられた中核メンバーの先生方に深く敬意を表します。また、第30回をわが町オルデンブルクで開催することができて、本当に光栄に思っております。

私ごとになりますが、2008年に日本語教育連絡会議に初めて参加し、その誠実でグローバルな空気にとっても魅かれました。また参加者には大学で教えていらっしゃる先生方が多いのですが、大学に限らず全ての日本語教育現場からの発信を積極的に取り入れている雰囲気があって、自分も何か発信してみたいという気持ちになりました。

今回、会場となったのは、市民大学 (Volkshochschule フォルクスホッホシューレ、略称VHS ファウ・ハー・エス) という一般成人教育機関です。この教育機関は、ドイツ国内の地方自治体ならどこにでもあるもので、語学コースの中には、たいてい日本語コースもあります。今回の会議を通して、参加者の皆さまには、ドイツのVHSのことを少し知っていただけたのではないかと思います。(巻末の機関紹介を参照してください)

今回の参加者は、計38名でした。この内、24名が日本から、7名がドイツから、7名がドイツ以外の欧州圏からの参加でした。所属機関の内訳では、大学が27名、大学外の機関が8名、無所属が3名でした。大学外の機関所属の内訳は、一般成人教育機関が5名、継承語教育機関が2名、政府機関が1名でした。

会議開催にあたっては、諸先生方から有形無形の力強いバックアップをいただきました。数日前に現地入りし、準備を手伝ってくださった先生方もいらっしゃいました。会議が始まってからは、さまざまな仕事を参加者の皆さんがまるで当たり前のように担当してくださいました。VHS-Oldenburgからは、企画スタッフ、語学講座スタッフ、ハウスマイスターの支援をもらい、オルデンブルク大学の学生には雑用を引き受けてもらいました。おかげさまで無事に会議を終えることができました。失敗や至らない点もたくさんあったのですが、どうか寛大にお許しいただきたいと存じます。そして、皆様にはこの場を借りて心より御礼を申し上げます。

オルデンブルクは旅行ガイドブックにも載っていない無名の町ですが、皆さんに来ていただけて本当に嬉しかったです。これを機にオルデンブルクは有名になるかもしれません。

それでは、来年の再会を楽しみにしつつ

オルデンブルク市民大学・日本語講師  
沼崎 邦子